

「しんどい子」を支える学校文化 ～大阪での外国につながるのある生徒の支援について～

大阪大学

榎井 縁

えのい

ゆかり

日本語指導を必要とする高校生等の中退・進路状況

文科省・大阪府教育庁より

平成29年度

1. 中途退学率	平成29年度	
	全国	大阪府立
日本語指導が必要な高校生等	9.60%	6.20%
全高校生	1.30%	2.00%
2. 進学率		
日本語指導が必要な高校生等	42.20%	66.70%
全高校生	71.10%	76.10%
3. 就職者における非正規就職率		
日本語指導が必要な高校生等	40.00%	43.80%
全高校生	4.30%	12.00%
4. 進学も就職もしていない者の率		
日本語指導が必要な高校生等	18.20%	9.70%
全高校生	6.70%	6.50%

全高校生と比べて、
全国（大阪）

7倍（3倍）の中退率

6割（8.8割）の進学率

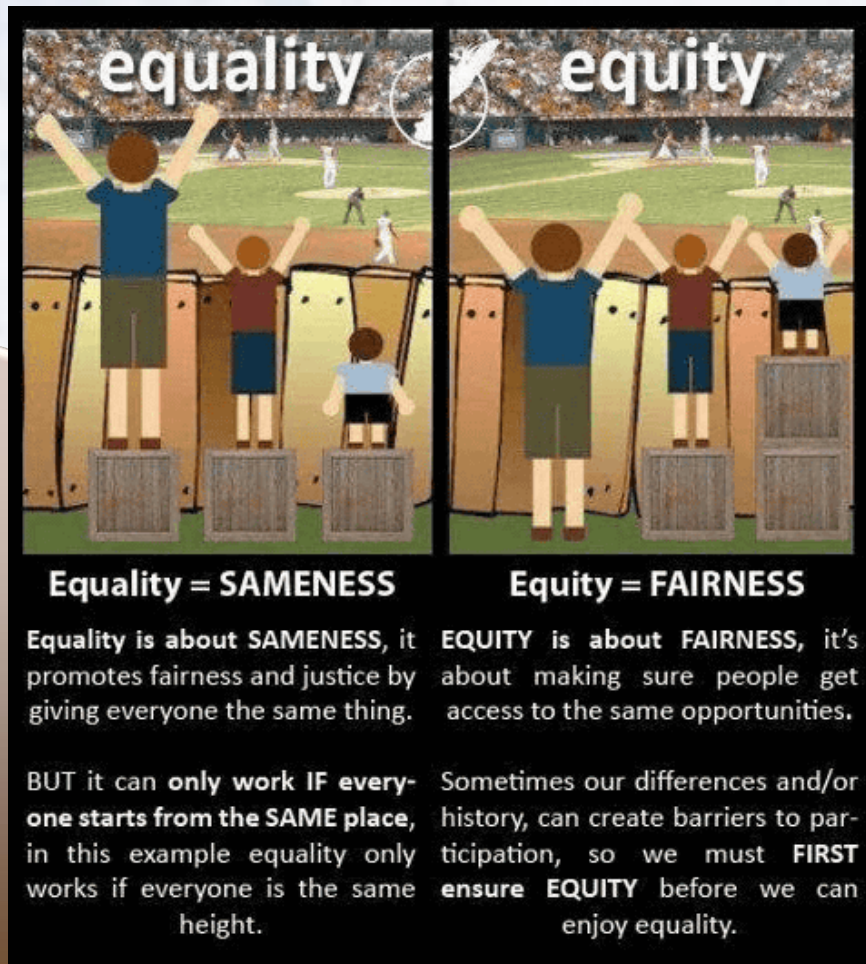
9倍（3.6倍）の非正
規就職率

3倍（1.5倍）の進学も
就職もしていない者の率

子どもの“底上げ^(公正)”に力を入れる 大阪の特徴

「しんどい子*」への伝統的な教員の眼差し

* 「しんどい子」のニュアンスは「問題児」として排斥するものではなく、社会的・経済的・家庭的に不利な状況にあって、教育課題を持つ子ども、学力や人間関係に課題を持つ子どもに対する愛着表現として使われる（新保2008）。その子どもたちを教育課題の中心に据えることで集団全員を高めていく。



同和教育

障害児
教育

外国人
教育

仲間を結ぶ進路保障

1960年代～

15の春を泣かせない・輪切りはごめんだ・みんな一緒に学校に行くんや
～被差別部落出身者、障害者、在日朝鮮人の進路への着目から～

進路に課題を抱えるグループのひとつに80年代後半から外国人（中国・ベトナム<インドシナ定住難民>）が浮上

1970年代障害児が健常児と共に学ぶインクルーシブ教育の取り組みが進む。1977年障害のある生徒に対する入学時の特別措置が開始、1979年知的障害のある生徒が府立高校に「準高生」として入学。当初は拡大解答用紙のみであったが、その後、**時間延長、点字受験、代筆回答、別室受験**などに拡張。



1989年**外国人生徒の入学特別措置制度**へ

日本語指導が必要な帰国生徒等に対する入試時の配慮の変遷

年度	配慮事項	対象者
1989年度	検査時間の延長	原則として小学校4年生以上に編入
1990年度	日中辞典の持込み可	中国語
1991年度	日越辞典の持込み可	ベトナム語
1993年度	「ふりがな票」の配布	
1995年度	問題文へのルビ打ち	
1996年度	小論文における翻訳	すべての言語ex.『日比辞典』と『比日辞典』
1996年度	辞書の持込み2冊まで可	原則として小学校2年生以上に編入
2000年度	作文・小論文におけるキーワードの外国語併記	
2006年度		原則として小学校1年生以上に編入
2016年度	自己申告書の代筆	

「特別枠」校設置の変遷

入試科目は数学、英語、作文（母語使用可、点数化されない）。中学時代の成績を考慮しない。
各校募集定員の5%以内、9~16人程度

年度	名称	設置校 (括弧内は新設置校)	対象者
2001年度	「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」	2校（長吉高校、門真なみはや高校）	原則として小学校4年以上の学年に編入
2002年度		3校（八尾北高校）	
2003年度		4校（成美高校）	
2005年度		5校（布施北高校）	概ね小学校3年以上で日本語力に支障がある生徒も認める
2014年度	「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」に改称		
2015年度		6校（福井高校）	
2017年度	「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」に改称	7校（東淀川高校）	
			2022年年度 8校目（わかば高校）

外国人生徒のためのカリキュラム

日本語学習

- ・ 学習言語の育成
(教科につながる日本語)
- ・ 社会で使える日本語
(進路保障)

日本語指導
教科指導
外国人担当教員
日本語担当教員

授業としてカリキュラムに入れる

母語学習

- ・ 思考力の育成
- ・ アイデンティティの確立
- ・ 保護者との会話

保護者支援

母語保障
母語講師
ネイティブ教員の配置

つながる力

(コミュニケーション力・表現力・
SOSをだす力など)

外国人生徒交流会・外国語スピーチ大会
ボランティア・地域貢献・文化紹介
ゲストティーチャーとしての活躍など

教科外活動として

居場所づくり
行事への参加
地域への参加

特別枠校の特徴的実践（母語）

- すべての子どもへの母語指導（ネイティブカルチャー）
ネイティブ教員たちが積み上げてきたものへの評価
母語の形成・維持、日本語の能力の伸長、自尊感情育成、
居場所、ネットワーク形成、保護者支援
- 母語の使用を許容する*教育実践 トランスランゲージング
言語的少数者の言語や文化を取り込むことにより
学校において疎外されるリスクが減少する

* 具体的には授業中に複数の母語が飛び交うような状況

特別枠校の特徴的実践（キャリア形成）

- 入学直後から行われる外国人支援担当教員と進路指導担当教員によるオーダーメイドのキャリアプラン（日本語検定、外国語検定、社会活動への参加経験の蓄積、進学費用の情報提供、ロールモデル・ピアとの出会い<居場所>）外国人としての強みを生かす AO入試、推薦入試、特別枠入試

枠校生徒の半数が4年生大学に進学（2003~2018年N=687のデータより）

「間隙を縫う」進路選択（樋口・稲葉2018）

エスニックな資源を活用するとともに、入学後のサポートを見据えた進路指導がされる
=7年（高校3年+大学4年）を日本で生きていくための教育時間として保障し、
生徒のライフチャンスの最大化を図る

梓校卒業生へのインタビュー調査より明らかになったこと

ニューカマー外国人の教育における編入様式の研究

① 高校時代には、母語保障・日本語保障とその強みを活かした進路保障により母語や家庭で身に付けてきた文化が最大限に発揮できる支援がされ、外国人としての自己肯定感が育まれる。

② 国際・言語専攻進学者はエスニシティを積極的に資源として活用、高校時代の経験がそれを多様（母国に留まらない広い視野）に促進させていた。

梓校卒業生へのインタビュー調査より明らかになったこと

ニューカマー外国人の教育における編入様式の研究

③ 主流社会の中でそれらが無化されたり差別体験に遭遇する際に、それへの抵抗や対処といったことを実践していた。

④ 就職した者たちは、様々な困難に遭遇しているケースが多かったが、何れも高校で身に付けたハイブリッドな資源を駆使して状況に対応していることが見られた。

→ いずれも高校時代にエスニシティが尊重されるという「承認」の経験を積んでいることが大きな力になっている

大阪におけるアクター

教育行政

- 府教育委員会 在日韓国・朝鮮人問題に関する指導の指針 88

学校・教員組織

- 大阪府外国人教育研究協議会（府外教） 大阪府立学校在日外国人研究会（府立外教） 設立 92

地域の支援団体

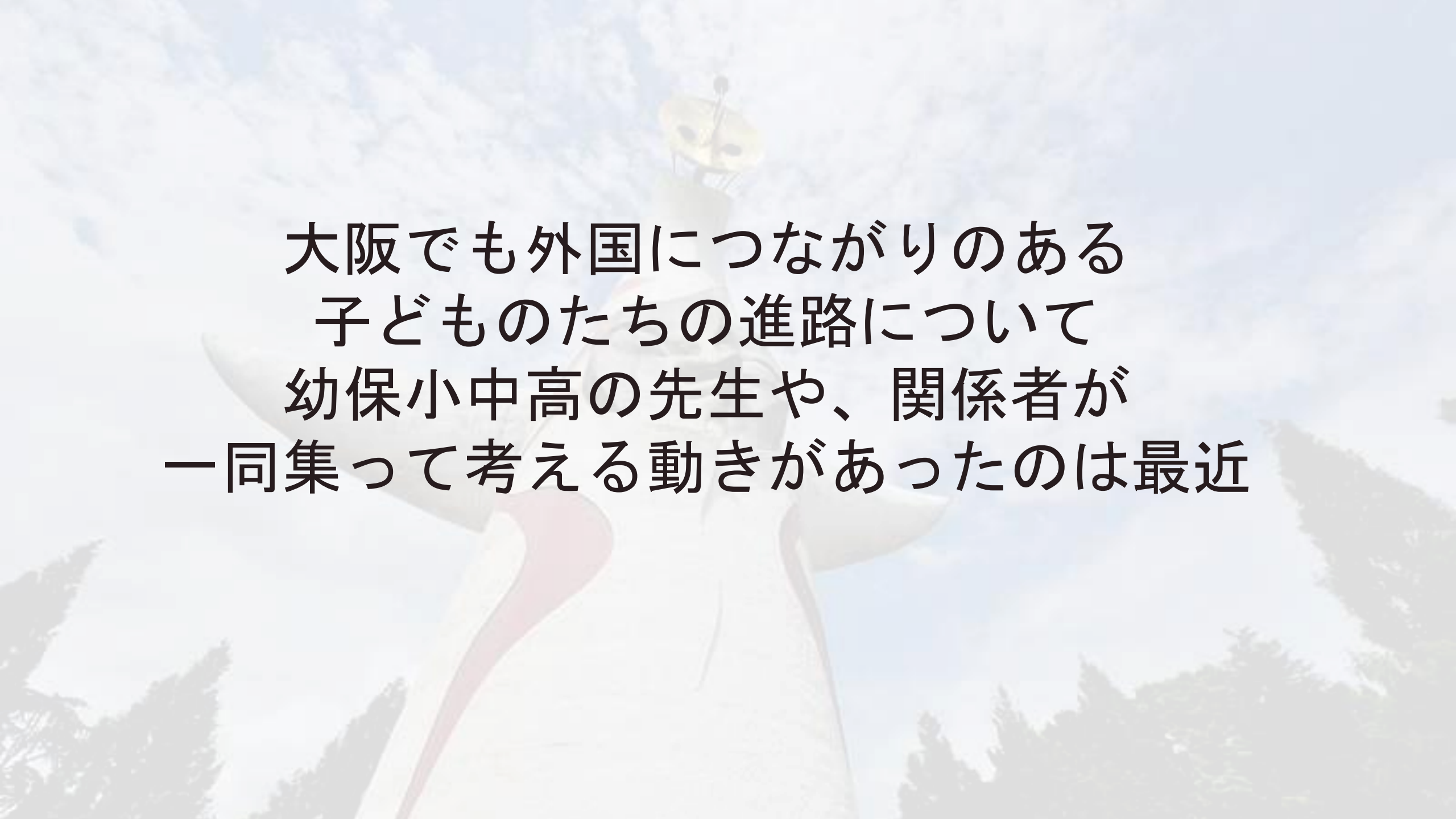
- 国際交流協会・子どもの居場所や学習支援団体やNPO

2000～2008年頃までに様々な仕組みを創出

就学前相談会・就学ガイドブック・日本語教育支援センター・教育サポーター養成・JSLカリキュラム

多言語進路ガイダンス 神奈川から98年に豊中市が導入、99年に大阪市で開催、

2004年からは大阪府全域を7地域にわけて行政、学校、NPOが役割分担をしながら毎年開催されている



大阪でも外国につながるのある
子どもたちの進路について
幼保小中高の先生や、関係者が
一同集って考える動きがあったのは最近

主催 大阪府在日外国人教育研究協議会

帰国・渡日の子どもたちの進路を保障するために

～18年間の育ちを支え、展望のある未来を!～

シンポジウム

日時 2021年12月7日(火)
14:00～17:00(受付 13:30)

会場 東成区民センター 小ホール
(大阪メトロ「今里」駅すぐ)

申込 府外教 (fugaikyo@nifty.com) へ
申し込んでください。

①お名前 ②所属 ③メールアドレス
④参加形式(会場 or Zoom)
を必ず記入して送信してください。

※当日、参加者からも意見を集約するため、ネット環境のあるスマホやタブレットなどの端末をご持参ください。(なくても参加可能です)

就学前～小学校～中学校～高校卒業までの
帰国・渡日の子どもたちの育ちを長期的に捉え、
現在地と課題、今後の展望について共に考えましょう!

子どもたちが将来に展望を持ち、 自分の強みを生かして社会参画するために

- 子どもたちを受け入れるための学校体制づくり
「あなたがいてくれてうれしい」「あなたのことがもっと知りたい」という雰囲気づくり 初期対応でまず教員が母語であいさつ
- 学習環境や日本語を含む学力保障
学習言語習得の日本語指導や教科指導や「やさしい日本語」の活用
子どもの願いに根ざした学習 まわりとつながるための日本語
- 高校入試制度・受験時の配慮や情報提供
就学歴・入国時期や渡航歴も必要との認識のもと
公簿の正確な記載や丁寧な引き継ぎが必要
- 高校生活と将来への展望
社会に出る前の時期こそ外国にルーツのある「強み」や「よさ」を
自覚できるような働きかけ 社会の中でどう生きたいのか一緒に考える

子どもの育ちを不断に支援すること

進路保障 = / = 高校進学支援

中学3年生の問題ではなく幼保小中高をつなげる

それぞれ行ってきた支援を

子どもの未来に繋げて考えること

日本で生きる力

アイデンティティの確立・自尊感情

社会への参画・自己実現へ

アイデンティティの確立

- ↓ ロールモデルとなる人との出会い（遠隔でもOK）
- ↓ 活躍の場（ボランティア、作文や文化発表、生徒交流会）
- ↓ 母語や母文化支援

社会への信頼とつながり

- ↓ 地域の国際交流センターやNPO、他の外国ルーツの仲間
- ↓ 子どもの国や文化を知る学習会 多言語表示ややさしい日本語
- ↓ 差別を許さない仲間・環境

日本語教育と学力保障

- ↓ 地域の日本語教室、ICTを活用した日本語指導
- ↓ 様々な教材（情報収集や情報交換）

キャリア教育と進路情報の提供

- ↓ 制度や情報を把握し、早期に伝える（母語での入試情報）
- ↓ 多言語進学ガイダンス 職業体験 高校や大学などへの見学会
- ↓ 特別枠入試や配慮事項、奨学金制度

参考文献ほか

- 新保真紀子「同和教育を土壌とする学校文化とニューカマー教育」志水宏吉編『高校を生きるニューカマー』、明石書店、2008年、pp.46～56
- 樋口直人・稲葉奈々子「間隙を縫うーニューカマー第二世代の大学進学『社会学評論』68-4、2018年、pp.567～583
- 『ニューカマー外国人の教育における編入様式の研究成果報告書』2018年度～2021年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）研究代表者榎井縁、2021年
- 大阪府教育庁 学校生活・進路サポート事業
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kikokutoniti-sapo/>
- 大阪府外国人教育研究協議会
<http://fugaikyo.in.coocan.jp/>
- おおさかこども多文化センター
<http://okotac.org>